

防災をデザインする—— 災害の中に希望を見出す創造的思考

NOSIGNER 代表/創業者 太刀川英輔

はじめに： 災害大国日本における防災デザインの意義

日本は世界有数の災害大国です。地震、津波、台風、豪雨—自然災害は私たちの生活に常に影を落としています。しかし、災害は単なる破壊の力ではありません。それは同時に、社会を根本から見直し、より良い未来を創造するための貴重な機会でもあります。

私たちNOSIGNERは、2011年3月11日の東日本大震災を契機に、「防災のデザイン」という新しい領域に取り組み始めました。災害という極限状態において人々が直面する課題を、デザインの力で解決し、より強靱で持続可能な社会システムを構築することです。

防災におけるデザインの役割は多岐にわたります。情報を整理し、わかりやすく伝えます。人々の行動を促し、正しい判断を支援します。そして何より、災害時に必要となる物理的・精神的な支援を具体的な「かたち」として社会に実装します。

気候変動の影響で災害は激増しており、今後ますます数や規模が大きくなると予想されています。特に日本は、地震や台風、津波などの災害に古くから苛まれ、多くの経験と知識を蓄積してきました。たとえば、日本の神社が津波の被害を免れた安全な場所に多く建てられていることをご存知でしょうか。こうした先人たちの知恵や過去1000年間の災害記録を読み解けば、未来に起こりうる災害への本質的な対策が可能になります。

本稿では、東日本大震災以降の10年以上にわたって私たちが取り組んできた防災デザインプロジェクトを振り返りながら、災害の中に希望を見出す創造的思考について論じていきます。

防災デザインの三つのフェーズ

防災デザインにおいて最も重要なのは、「災害のタイムライン」を理解することです。自然災害は時間の経過とともに必要となる対策や課題が変化していきます。

Phase 1：災害発生以前（平常時）

災害から多くの命を守るためには、災害が発生する前の「防災」が最も重要です。市民が災害の現実感を持ち、自ら災害に強い暮らし方を実践するためには、日頃から防災意識を高めるコミュニケーションデザインが求められます。楽しみながら防災知識を学べるエンターテインメント性のあるコンテンツやサービスが有効です。

Phase 2：災害後72時間（緊急時）

自然災害における人命救助では、発生から72時間を生存できるかが大きなカギになります。ライフラインが絶たれ、あらゆる物資が不足している状況下で、極限状態を生き残る知恵を広く共有するコミュニケーションデザインを迅速に行うことが被災者の命を救うことにつながります。

Phase 3：復興期（災害発生後～数年）

災害を生き延びた人々は、住まいや仕事、地域コミュニティなど、多くの生活基盤を失っています。被災者の心身のケア、地域コミュニティの再生支援、産業や雇用の創出が大きな課題となります。この時期のデザインには、地域に再び希望や活力を生み出す取り組みが必要です。